

# 大志を育む



令和元年 5 月 17 日

教育委員会だより

No. 28

発行：北広島市教育委員会

北広島市小中一貫教育 2 年目

## 「充実・発展」から「深化」へ

教育部理事 津谷 昌樹

今年度がはじまり、ひと月半ほどが過ぎました。この間、平成から令和へと時代が移り変わり、10 連休や関連行事・各種イベント等も行われました。各学校におかれましては新しい職員体制のもと、年度計画に基づく教育活動が順調に進められていることと思います。

さて、4 月 10 日の教育施策研修会では、校長先生・教頭先生方を対象に今年度の学校教育の推進方針等について説明をさせていただきました。ご承知の通り、今年度の北広島市学校教育の重点は、『義務教育 9 年間を通して生きる力を育む 小中一貫教育の深化』です。

昨年度より本格的にスタートした本市の小中一貫教育は、今年度「充実・発展」から「深化」の段階へと進みます。6 つの中学校区ごとの「小中一貫教育進行管理表」をもとに、1 年間の見通しをもち、各地区の特色を生かしながら、今年度の取組が積極的に推進されることを期待しています。

小中一貫教育の取組は、学校が抱える様々な教育課題の解決やより良い教育の在り方を、義務教育 9 年間の枠組みの中でとらえ、模索し、一つひとつ教育実践を積み上げていこうとするものです。この過程は、決して平坦な道のりばかりではありませんが、準備期間を含めたこれまでの 3 年間、各地区において着実に歩を進めてきました。この先必ず、さらに大きな成果に結びついていくものと確信しています。

これからも、教職員の皆さんとともに、新たな取組に挑む先駆者としての理想と気概を忘れず、「大志をいだき 心豊かに たくましく生きる」北広島市の子どもたちを育てていきたいと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

### 小中一貫教育 今年度の重点的取組

1. 学校経営方針における重点や共通化できる項目の整理
2. 職員自己評価、生徒・保護者アンケートの共通評価項目の設定
3. 研究主題の共通化
4. 年度当初における教職員の小中一貫教育に対する共通理解の形成
5. 小中一貫教育全体構造図（中学校区）の作成

#### 学びをつなぐ

教科系統表の作成と活用  
・学力調査・NRT 検査結果分析による重点領域の設定と可視化  
系統表を生かした 9 年間の年間指導計画の作成と活用  
学習規律、生活・学習習慣の統一した指導の継続  
スタンダードの実践検証

#### 大志をつなぐ

小中の接続を意識した夢ノートの活用  
全体計画・年間指導計画に基づく系統的な「大志学」の推進

#### 人と人をつなぐ

児童会・生徒会交流  
小中の事業交流、合同事業の実施  
土曜授業等を活用した地域への授業公開

キーワードは「つなぐ」  
キーワードは「つなぐ」

# 東部中学校区 小中一貫教育 2019 年度の取組スタート!

## 推進体制

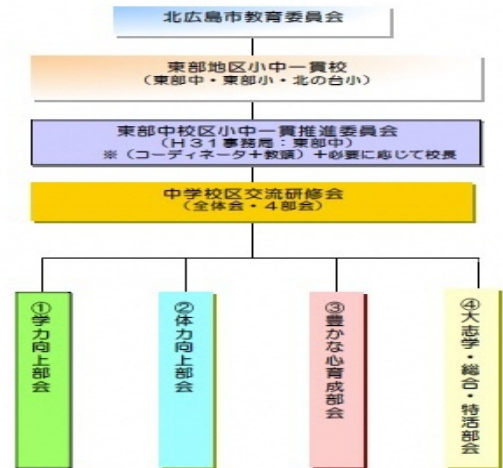
昨年度に引き続き以下の4つの部会を中心に小中一貫教育を推進していきます。

- 学力向上部会
- 体力向上部会
- 豊かな心育成部会
- 大志学・総合・特活部会

### 第1回各部会開催

北の台小・東部小では4月13日(土)の土曜授業の午後の時間に、東部中では4月17日(水)の職員会議後にそれぞれの学校で、教職員による今年度第1回目の各部会が開かれ、具体的な取組について確認しました。

【H31 東部中校区小中一貫教育推進組織体制】



## 具体的な取組

### 4月の取組から

#### ～相互乗り入れ授業の日常的な展開～

昨年度に引き続き、東部中学校の先生が東部小学校、北の台小学校の外国語活動の教科担任として日常的に乗り入れ指導を行っています。英語の専門性を生かし、学級担任やALTとの打ち合わせを密にしながら子どもたちが楽しく学べる授業づくりに努めています。



東部小学校の外国語の授業の様子

また、4月19日(金)に東部小学校23日(火)に北の台小学校の昨年度の小6の担任の先生が中1の生徒たちの授業へ乗り入れ指導に訪問しました。ひと月前とはまた違う表情の生徒たちの様子に安心しながら、新たな学校生活への前向きな取組を、チームティーチングの関わりの中でサポートしていました。



北の台小学校の先生が東部中へ



東部小学校の先生が東部中へ

### 今年度の新たな取組 ～研究主題の一本化～

<東部中校区 研究主題>

児童・生徒一人一人に「確かな学力」が身につく授業の創造  
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進～

研究主題にせまる3校共通の取組を、研究部を中心に検討・設定するとともに、各校の取組状況や実践の成果や課題を共有し、小中学校間での指導の系統性も踏まえながら推進していきます。